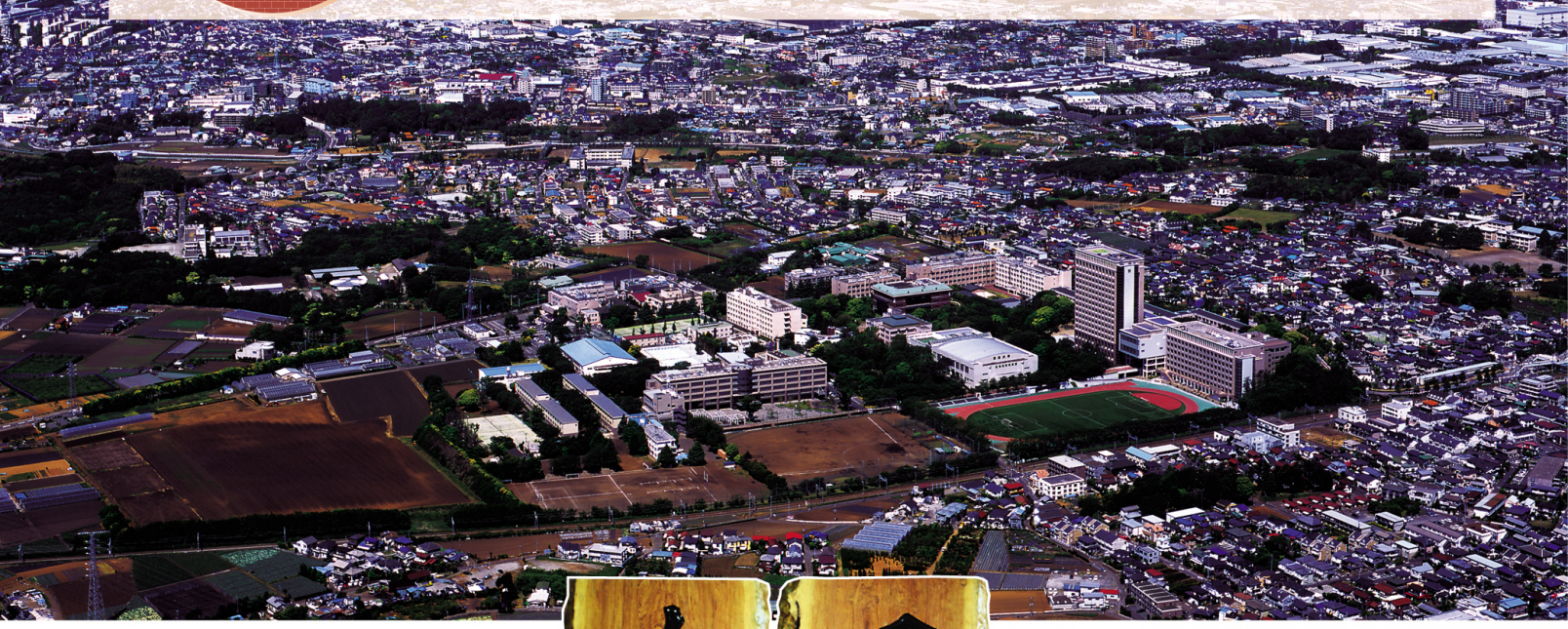
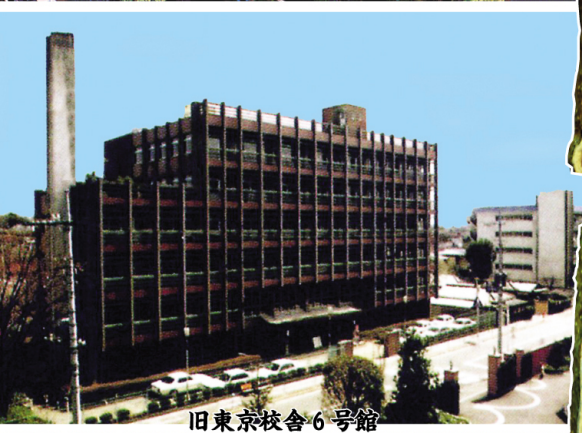
あなたとともに100万人の仲間とともに

60th ANNIVERSARY

日本大学生物資源科学部 校友会60周年記念誌

自主創造 日本大学





旧東京校舎6号館

文字 学祖 山田顕義 伯蔵書より抜粋

湘南 本館キャンパス

◇目　次◇

(2).帰属意識の醸成と自校教育
生物資源科学部　学部長　徳山　龍明
(2).学部校友会　会長　内田俊太郎 ご挨拶
(3).農学校友会〔植物資源科学科〕
(4).紫友会〔生命化学科〕
(5).角笛会〔獣医学科〕
(6).満喜葉会〔動物資源科学科〕
(7).いもづる会〔食品経済学科〕
(8).あすなろ会〔森林資源科学科〕
(9).桜水会〔海洋生物資源科学科〕
(10).工学会〔生物環境工学科〕
(11).ＦＴ会〔食品生命学科〕
(12).拓友会〔国際地域開発学科〕
(13).短期大学部湘南校友会
〔短期大学部生物資源学科〕
(14).応用生物科学科校友会
〔応用生物科学科〕
(15).支部だより
(16).歴代校友会　会長・事務局長名簿
校友会分会　歴代会長名簿

帰属意識の醸成と自校教育

生物資源科学部
学部長　徳山龍明

このたび、日本大学生物資源科学部校友会が、創立60周年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。校友会の皆様が実業界をはじめ、官界・行政等のそれぞれの分野でご活躍下さり、社会から高い評価を受けておられることに先ず敬意を表し、お慶び申し上げます。私ども教職員は、本学部に対して平素からご支援とお力添えをいただいている校友会の皆様に心より感謝を申し上げます。

日本大学は本年10月に創立120周年を迎えます。人類を取り巻く地球環境、食資源の安定供給とその安全性の確保、バイオテクノロジー等の生命科学を教育、研究の対象にしている本学部に対する社会の期待は益々、大きくなってきております。生物資源とその関連分野に関する総合学部としての本学部の潜在能力を高め、それを十分に引き出すためには、校友・学生・教職員の一体化が必要であります。これを基盤として、学生の大学に対する帰属意識の醸成と高揚を図ることが私たちの大切な使命です。私は、ことあるごとに日本大学の建学の精神「自主創造」と本学の歴史を含めた、いわゆる「自校教育」を学生の皆さんに行うことによって帰属意識を育んでいます。この帰属意識こそが、校友の皆様・学生・教職員を強固に結びつける「絆」になる最大の要素であると確信しているからです。

本学部は一次産業を基盤とし、環境、生命、食料、資源、生産と密接に関連する分野を教育・研究することを基本理念としております。教育に当たっては講義室からフィールドへ、つまり能動的学習要素によって、学生の学習意欲と夢を開拓したいと考えています。キャンパス内に農場、演習林を持つ本学部の恵まれた環境は、同僚大学と比較して優位な立場にあると言えます。この利点をさらに活かし、学部内教育においてはもちろん、付属中学・高等学校との一貫教育による体験学習、フィールド教育の実践を本学部の特長の一つにいたしたいと考えています。さらにこのフィールドワーク教育プログラムを推進して、「自主創造」を心に強く意識し、自ら新しい知識を得る喜び、自らの思考で熟慮し、多くの問題に関して果敢に取り組む人材を育成し、学生の技術倫理教育、職業倫理教育に展開させることを目指しております。本学部には実業界を志向する学生が数多くおります。このような学生に実学的学問の夢とロマンを抱ける、より実際的な教育指導を行いたいと思っております。在校生の多様な要望に対して、いずれの志向にも対応できる教育基盤の整備に邁進しております。

わが国における昨今の景気後退、とくに2008年は、戦後最悪の世界金融危機の年として歴史に刻まれています。この経済不況は、かつての就職氷河期を上回る就職難を学生にもたらしています。私たち教職員は、この事態を極めて重く受け止め、学生の「出口管理」指導の徹底を図っております。社会でご活躍の校友の皆様におかれましても当学部の取り組みをご賢察いただき、特段のお力添えをお願い申し上げます。輝く歴史と伝統を誇る本学部のさらなる飛躍のためには校友会の皆様との緊密な連携が今後とも必要であると確信しております。オール日大、さらには社会から高い評価を受ける学部の構築に向けて校友の皆様のお力添えとご鞭撻を賜れば幸いでございます。

終わりに、校友会の皆様のご健勝と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

（日本大学 理事）

日本大学生物資源科学部校友会60周年にあたって

生物資源科学部校友会
会長　内田　俊太郎

日本大学生物資源科学部校友会の歴史は、昭和23年10月の農学部校友会設立に始まり、その後昭和26年4月農学部校友会と法学部専門部拓殖科校友会が合併し、新体制の農学部校友会が発足し今年で60周年を迎えることができました。

中国に「前人植樹、後人乗涼」（前人木を植え、後人涼し）と言う諺があります。

生物資源科学部校友会は正にこの諺のとおり、諸先輩の汗と努力の結果が今日の校友会を築き、私たちはそれを次の世代に伝えていかなければならない責任と使命があります。

学部校友会の目的は「会員相互の親睦を図り、日本大学の興隆発展に寄与する」ことにあり、その目的に添って学部支援、準会員(学生)支援、校友の絆の強化のための事業に今後とも努力して参ります。

日本大学生物資源科学部校友会が創立60周年を迎えるにあたり、今日までの諸先輩方のご活躍に深謝申し上げると共に、今後共、校友の皆様方のご指導、ご鞭撻をお願いしてご挨拶と致します。

（日本大学評議員・日本大学校友会副会長・拓友会会長）

学祖　山田　顕義（やまだ　あきよし）

用兵の妙・神の如し

本学の前身である日本法律学校の学祖山田顕義は、弘化元年（1844）、長門国萩郊外の椿東中倉(現山口県萩市)で、長州藩士山田七兵衛顕行の長男として生まれた。一門には、村田清風、山田亦介、河上弥市などがおり、幕末から明治維新に活躍した人材を多く輩出している。山田顕義は藩校明倫館で文武の教えを受けるとともに、吉田松陰の松下村塾で師・松陰の薫陶を受けた。

大村益次郎から西洋式近代兵学を学び、幕末、維新の動乱の際には、軍事的才能を発揮した。25歳で「戊辰戦争」の発端となった「鳥羽・伏見の戦い」に参加し、「箱館戦争」時には、海陸軍参謀として維新政府軍を勝利に導いた。明治7年の「佐賀の乱」、明治10年の「西南戦争」では政府軍の指揮官として参加したが、その優れた戦術は「用兵の妙、神の如し」とうたわれ、明治11年には、陸軍中将となっている。

初代の司法大臣

明治新政府では、東京鎮台司令長官、司法大輔、参議、工部・内務・司法の各卿などを歴任。明治18年、内閣制度の創設にともない初代司法大臣に就任し、同24年、病気により辞職するまで、伊藤、黒田、山県、松方の4代の内閣で司法大臣を務めた。

国学の振興にも意を払い、明治15年、内務卿当時に皇典講究所設立に関与し、同22年には所長に就任、明治22年10月4日には、日本固有の学問の上に、欧米文化を取り入れた法律専門の学校づくりを目指して本学の前身、日本法律学校を創立した。

【表紙文字は山田顕義伯のモニュメントを使用。】

農　学　校　友　会
◆植物資源科学科◆
連絡先　作物学研究室
0466-84-3502
事務局長　藤井　秀昭
E-mail:fujiaki@brs.nihon-u.ac.jp

農学校友会・植物資源科学科 この10年の歩み

【農学校友会】

学部図書館南側のスペースに農学校友会30周年記念として1983年に植えられた「たぶのき」は、学部校友会60周年を迎えた現在、大きく成長し幹の周囲が90cmに達しています。この10年間に農学校友会では、平成11年（1999年）に会長として楠元守氏（13期卒）が就任され、総会の毎年の開催、50周年記念誌の発行（2003年）など会の発展に尽力されました。平成20年（2008年）からは、石川稔矩氏（19期卒）が会長を引継ぎ、現役学生へのさまざまな支援をはじめ活発な活動が始動しています。

【学　科】

◆教員の動き

この10年間で学科教員は大きく変わりました。平成11年度には篠原正行先生（植物病理学）、12年度には石井賢治先生（遺伝育種学）、坪木良雄先生（作物学）が、平成17年度には米田和夫先生（花卉園芸学）が退職されました。平成12年度から18年度には、池橋宏先生（遺伝育種学）、平成13年度から19年度には、吉田博宣先生（造園学）が教授として学生教育に尽力されました。平成12年度から前田孚憲先生（植物病理学）、平成13年度から石井龍一先生（作物学）が、平成19年度から腰岡政二先生（花卉園芸学）がそれぞれ教授として教壇に立たれています。若手教員として、平成11年度に宍戸理恵子先生（遺伝育種学）、平成12年度に窪田聡先生（花卉園芸学）、平成15年度に井村喜之先生（植物病理学）、平成18年度に畠山吉則先生（応用昆虫学）、平成19年度に大澤啓志先生（造園・緑地学）が着任されました。

◆カリキュラム内容の変化

平成8年に学科名称が農学科から現在の植物資源科学科へ変更になって以来、名称に沿ったあるいは学部教育目標に則したカリキュラムに変更されました。平成14年度から平成17年度のカリキュラムでは学生が自ら学習目標を立てることができることを狙って、必修科目が少なく、選択科目が多い構成となりました。また、卒業研究も選択科目でした。平成18年度からのカリキュラムでは、再び卒業研究やゼミが必修科目となり、学生一人ひとりに対してより一層きめ細かな指導を目指しています。

◆学科研究室の移転

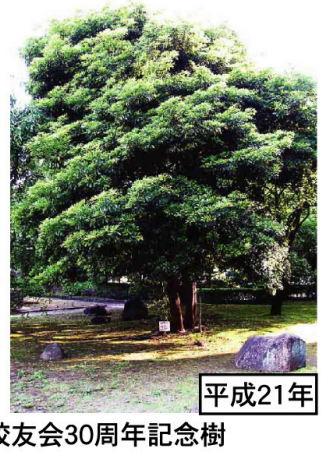
学科研究圃場に新設された組換え温室

平成15年、学科研究室は7号館から新築間もない12号館に移転しました。世田谷校舎から藤沢へ移転した昭和57年以来20年余りにわたり7号館の研究室からは多くの卒業生が巣立って行きました。12号館では、学科占有スペースが広くなったことにともなって、共同利用施設として、遺伝資源利用室、

学科収穫祭は2008年で第34回を迎えた

植物生育制御室、植物整理機能解析室、遺伝子機能解析室ならびに学科実験室・準備室が整備されています。これらの部屋の設置計画にあたっては、学科の将来展望について度重なる議論が行われました。現在、整備された先端的な分析機器類や人工気象室を使って活発な教育、研究活動が行われています。

平成13年



平成21年

図書館南側に植えられた農学校友会30周年記念樹

グランドから見える12号館は学科の拠点（スポーツフェスタ2007）

生物資源科学部（旧農獣医学部）沿革

明治22年10月　日本法律学校創立（創立者 山田顕義）

明治36年8月　日本大学と改称

明治40年5月　東京獣医学校設立

昭和12年3月　専門部拓殖科（農業・貿易専攻）設置

昭和18年5月　農学部（農学科・農業経済学科）設置

法文学部本部

紫　友　会
◆生命化学科◆
連絡先　微生物学研究室
0466-84-3942
事務局長　高橋　令二
E-mail:reijit@brs.nihon-u.ac.jp

農芸化学科から生命化学科へ

学科主任　奥　忠武
（昭和38年卒業）

農芸化学科この10年間のあゆみ

大きな出来事は、平成12年3月に湘南校舎に移転をしたことと、本年4月に学科名称を「生命化学科」に変更したことです。

学科主任は、現在、奥がつとめ、過去には徳山，有賀両教授があたりました。昨夏から学部長に徳山教授が、短大次長に長谷川教授が就任しております。

石井謙二名誉教授が叙勲（瑞宝中綬章･平成(H)19年秋)）されました。

西尾先生(H14)が日本応用糖質科学会から、川東（H19）、長谷川(H20)両先生が日本土壌肥料学会から学会賞を受賞しました。この10年間に7名の中堅教員が海外留学をしました。春見(H17)、中川(H18)、袴田(H19)、赤尾(H20)の先生方が専任として着任されております。

水野重樹教授は、ご病気でご逝去(H17.1)されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

大石邦夫教授(H12.3)、矢崎仁也教授（H13.4)、山本一彦教授(H17.3)、河内隆専任講師(H18.3)

現在の教員

現在の学生実習

が退職されました。長倉かすみ(H11)、波多江みつ美(H13)、野口勝枝（H14)、中川ゆかり(H16)、松下聡美(H17)、小野田ゆかり(H20)の各副手さんが退職されました。各位に感謝を申し上げます。

◆生命化学科がスタート

永年の念願であった新学科が、学部当局を中心に大学本部，紫友会等関係各位のご協力により、新方針と新カリキュラムのもとに、今春162名の新入生が入学しスタートをしました。皆様のご支援とご協力を願い上げます。学科のHP(http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~cls/)を一新致しました。是非ご覧下さい。（農芸化学科2～4年生の総数は465名）

◆現在の研究室の構成

〔教授:P 准教授:AoP 専任講師:AiP 助手:RA 副手・実習助手:A、末尾の数字は卒研生-院生〕

微生物学研究室：P徳山龍明
AoP高橋令二・AiP中川達功(21-6)
酵素化学研究室：P春見隆文
AiP加藤順・AiP荻原淳(21-9)
食品化学研究室：P櫻井英敏
AoP熊谷日登美・RA赤尾真(25-5)
栄養生理化学研究室：P有賀豊彦
AoP関泰一郎(23-15)
生物有機化学研究室：P奥忠武
AoP西尾俊幸・AiP袴田航(20-13)
土壌学研究室：AoP隅田裕明
AiP川東正幸(23-3)
植物栄養生理学研究室：P長谷川功
AoP野口章(16-5)
実験準備室：A坂内茉莉・A清塚まみ

校友会創立60周年記念に寄せて

紫友会会長　木嶋　弘倫
（昭和37年卒業）

今年度より紫友会の会長をお引き受け致しました。先代の茂澤 杲様は永年に亘って紫友会と学部校友会の会長に就き、校友会の発展にご尽力されたことに紫友会校友一同は敬意と感謝の意を表するものであります。

東京校舎３号館

私が入学した昭和33年に本校に農芸化学科が新設され、我々が一期生となります。入学したときは、まだ幾つかの校舎は板張りで相当古い建物でありました。授業は三軒茶屋校舎で、六会には4年生のときに卒論に使う甘藷のサンプルを取りに行ったぐらいで、その他は全く縁のない処でしたが、2000

創設50周年祝賀会

年に学科が移転し六会の地を本拠とするに至りました。2004年には紫友会創立50周年を迎えその記念事業として、記念式典、学科への記念品として学生実験室AVシステムの寄贈、記念誌の発行を行ないました。

現在は、世界的に異常な経済不況になっておりますが、学生諸君は誇りを持って、自分を大いにアピール出来る進路・職場を選んで下さい。OBの皆様にはどうぞ生命化学科（旧農芸化学科）の名を大いに世間に広めていただけますようお願い申し上げます。

昭和18年5月　麻生慶次郎 学部長就任

昭和20年8月　三浦伊八郎 学部長就任

昭和21年4月　三浦伊八郎 学部長就任

昭和21年8月　専門部農業経済学科設置、専門部拓植科廃止

昭和22年5月　農学部に林学科と水産学科を設置

麻生慶次郎 学部長

昭和15年八紘荘（寮）竣工

沿革の続きは6ページへ続きます。

角　笛　会

◆獣医学科◆

連絡先　獣医病理学研究室
0466-84-3624
事務局長　渋谷　久
E-mail:shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

校友会設立60周年を祝して

獣医学科校友会 角笛会
会　長　中川　秀樹
(昭和40年卒)

生物資源科学部校友会が設立60周年を迎えられましたこと、心よりお祝いを申し上げます。

1948年(昭和23年)に農学部校友会が発足して、1996年(平成8年)には学部改組に伴い、新たに生物資源科学部に名称を変更されましたが、以来学部同窓会組織として12学科校友会が手を携えて在校生支援と学部並びに日本大学本部校友会の発展に寄与してまいりました。設立された時は新生教育制度が発足し、荒廃した戦後の日本を再建するために国民が懸命に立ち上がった黎明期でありました。以来今日まで、校友会活動に滅私して運営に邁進されてきた諸先輩の努力に敬意を表すると共に感謝を申し上げます。

1949年当時の世界人口は31億人でしたが、現在は66億人と云われ、人口増加に伴う食糧、エネルギー、地球環境問題に加えて、新興感染症、民族対立、経済格差、教育格差などを解決して平和と安全な社会を構築できる事を人類は求めています。この諸問題解決に生物資源科学部の各学科は欠く事のできない先端技術研究と人材育成を担い、また、多くの校友がそれぞれの分野に置いて貢献を続けています。

獣医学科校友会は学部校友会が次世代を担う若人の教育環境整備と学部教育の質の向上に、今後も一層の貢献ができるよう結束して協力をしてまいる所存であります。

末筆に校友会の益々の発展と校友各位の御活躍を祈念申し上げます。

獣医学科創立100周年記念祝賀会

獣医学科の１０年

獣医学科主任　佐藤　常男
(昭和50年卒)

生物資源科学部校友会の皆様には日頃より、当学科の教育、研究活動にご支援を賜り、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

この10年は獣医学科にとって新たな発展を遂げた時期でした。平成17年には

平成17年に設置された動物医科学研究センター

平成18年に竣工した9号館(臨床棟)

日本大学動物病院の拡張と動物医科学研究センターの設置、また中国四川省成都大熊猫繁育研究基地におけるパンダ研修が開始されました。平成18年には臨床棟である9号館が竣工し、平成19年には6号館の改修が終了し、最新のAV機器と実習用設備を備えた教育環境が提供できるようになりました。また同年は獣医学科創設100周年という大きな節目を迎えました。

平成20年には獣医学科にとりまして大変大きな慶事がございました。獣医衛生学の酒井健夫教授が９月１日付で日本大学総長にご就任されたことです。獣医学科出身の総長が誕生したことは当学科にとって大変栄誉なことであり、喜びでもございます。今後とも酒井健夫総長の下、私ども獣医学科教員は一丸となって獣医学教育の益々の充実に向けて励んでいきたい所存でございます。生物資源科学部校友会の皆様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますと共にご健勝をご祈念申し上げます。

平成19年に改修した6号館

大学院獣医学研究科ー発展と充実の10年ー

獣医学専攻主任　月瀬　東
(昭和40年卒)

大学院獣医学研究科博士課程(修業年限3年)は、1955年(昭和30年)に文部省より設置が認可された。その後、獣医師養成教育は1990年(平成2年)に一貫6年制の学部教育が完成し、これに伴い、大学院獣医学研究科獣医学専攻は博士課程のみとなり、修業年限は4年となった。本研究科が、今日までに輩出した学位授与者は201名で、そのうち過去10年間(平成11年～20年)に課程博士33名(内　女性8名)、論文博士14名(内 女性2名)が博士(獣医学)の学位を取得した。

本研究科の教育・研究領域は6つの分野、すなわち「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の分野から構成され、平成20年度現在、教授17名、准教授8名、専任講師8名が大学院での教育・研究指導を担当している。

基礎研究領域を担当する各研究室は、近年、研究器機の充実と整備に特に力を注ぎ、改修された6号館の研究環境は国内有数のレベルに達し、大学院での高度な基礎研究が行われている。

6号館機器室に設置された透過型電子顕微鏡

応用研究領域を担当する各研究室は、「動物医科学研究センター」を中心に活発な研究活動を行っている。本センターは、文部科学省によって選定された平成16年度の私立大学学術研究高度化推進事業　日本大学学術フロンティア共同プロジェクト:「人獣共通感染症のサーベイランスと制御」の導入により設置されたもので、大学院生に対して、国際的にも通用する高度な研究指導が行われている。

臨床研究領域を担当する各研究室は、日本大学動物病院と2006年に新設された臨床実習・研究棟を中心に、大学院での教育・研究指導を行っており、学生は高度な専門知識や実践的な技術を習得することが可能となっている。

近年では、一般社会人、留学生にも入学の門戸が大きく開かれ、獣医学以外の他学科出身者も入学することができる。平成20年度の大学院獣医学専攻には29名の学生が在籍し(充足率120%)、全学的にみても極めて活性度の高い研究科の一つとなっている。

日本大学動物病院の変遷

日本大学動物病院長　田中　茂男
(昭和38年卒)

日本大学動物病院(Animal Medical Center:ANMEC)は、平成7年3月本学部の湘南キャンパスに新たに最先端の医療設備を整えた動物病院として開設された。ANMECは先端的な動物医療を実践する教育病院として、獣医師の育成や獣医師の生涯教育の場として機能する一方、動物医療を通じて地域社会に貢献することを目的に活動が開始された。

現在の動物病院

建物は、鉄筋コンクリート2階建、延べ床面積1,359.16㎡であり、最新の医療機器としてMRI, CTなどが導入された。その後、開設6年目を迎えた平成12年9月、診療頭数の増加に伴って待合室や診察室が狭隘となり、新たに247.63㎡の増築工事を行い、1階には待合室、事務室、診察室が増築され、述べ床面積は1,600㎡となった。さらに開設10年目を迎えた平成16年4月には、既存の建物をはるかに超えた2,100㎡の大幅な拡張工事を行い、述べ床面積は3,700㎡となり、装いも新たに水準の高い獣医療施設としての新動物病院が完成した。また、設備面では最新鋭のMRI,CT(16列)が更新された他、時代に対応した放射線治療装置(ライナック)が導入されるなど、現在は、高度医療を実践する動物医療の一大拠点に発展している。

放射線治療装置（ライナック）

満　喜　葉　会

◆動物資源科学科◆

連絡先　草地学研究室
0466-84-3652
事務局長　丹羽　美次
E-mail:niwa@brs.nihon-u.ac.jp

動物資源科学科この10年

小林　信一（学科主任）

動物資源科学科は、今年も新入生152名を迎えた。この10年間の本学科の変化と特徴をまとめれば、第一に女子学生比率が過半を占める状況の継続、第二に首都圏、非農家出身者が学生の大半を占めること、第三には、学生の興味の主体が伴侶動物や野生動物であり、しかもミクロの科学よりも、丸ごとの動物への関心が強いこと、などが挙げられる。

この10年間の一年次生の女子比率は62.1％で、最低は平成19年度の52.1％、最高は15年度の69.5％で、一貫して過半数を占める状況が続いている。ここ2, 3年はやや減少しており半数を割るかにみえたが、21年度には再び61.3％と60％を超えた。学科に数名しか女子学生がいなかった時代を知る先輩諸氏には想像しがたい状況ではないだろうか。

また、湘南キャンパスのある地元神奈川県を始め、東京都、埼玉県、千葉県の南関東出身者がほぼ7割を占めている。入試区分は一般入試の他、付属高校・指定校・一般校・関連産業後継者・校友子女などの推薦入試、留学生・帰国子女入試など多様化しているが、留学生は現在の在学生にはおらず、農業後継者はごくまれであり、地方出身者もあまり多くなく、入学学生は首都圏の非農家出身者が大半で、平準化、均一化していると言えよう。

女子学生比率の増加は、女子の大学進学率の高まりや、高校での女子生徒の生物教科履修割合の高さなどが背景と考えられる。それに本学科の独自要因として、第一に平成４年度にカリキュラム変更が行われ、対象動物が従来の家畜中心から野生動物、伴侶動物なども含む、より広範な動物種に拡大したこと、第二に、その後平成8年度に、学部名称が農獣医学部から生物資源科学部に変更されることに合わせて、学科名称も畜産学科から動物資源科学科に変更されたことなどが指摘される。

平成21年3月学科教員歓送迎会

また、学生の関心事項については、新入生を対象にした「将来なりたい職業」のアンケート調査によると、常に第1位は動物園の飼育員であり、全体の4割程度と圧倒的な割合になっている。以下、野生動物関係、障害者補助犬・家庭犬訓練士などが1割程度ずつ、他にはペットショップ、動物看護士などペット関連も一定の割合を占める。他方、畜産関連の職業は非常に低い割合でしかない。ただし、こうした関心分野は、実体験を伴わないテレビなどのマスメディアによる影響が大きい。そこで、イメージとしての職業ではなく、実体験に基づいてその職種の自身への適否を判断してもらうために、2年次にインターンシップ（動物資源科学特別実習）を実施している。その結果毎年延べ130名（ほぼ8割）の学生が、夏期休暇などを利用して3週間程度の学外実習を行っている。その中でも人気の高い実習先はやはり動物園だが、他大学の人気も高いため、なかなか実習に行くことも難しい状況にある。この他に動物病院や補助犬育成施設、ペット関連企業、野生動物保護施設なども多く、また北海道などの牧場にも毎年20～30人が実習を行っている。

ここ10年間の卒業生の就職状況を見ると、最も多いのは食品製造業、食品やペット関連などの卸売業の約１割で、大学院への進学が同程度を占める。それ以外では、飲食関係の小売業、外食、医薬品関連企業などが続き、畜産物食品の製造販売業がやはり主体を占めている。また、畜産業への就業も多くはないがコンスタントに毎年５人前後が法人農業経営や酪農ヘルパーなどになっている。新入学時点で最も人気のあった動物園の飼育係は毎年１人程度でしかない。首都圏の動物園の飼育員に占める日大卒業生の割合は高いものの、定期採用が毎年あるわけではなく、実際の就業は極めて難しい。こうした、入学時と卒業時のギャップは、学生の現実的な選択の結果でもあるが、大学生活４年間の授業や実習を体験する中で、関心事項が広がり、変化していった結果でもあるだろう。

学科としても最近の学生の関心事項に対応するためもあり、カリキュラムや学科名称の変更とともに、新分野への教員の配置などの対応を行ってきた。この10年の間に、副手、実習助手を除く専任教員は、10名が退職し7名が新たに任用された。平成11年度に西田隆雄先生（生体機構学）、12年度に今井清先生（動物生殖学）、13年度に森地敏樹先生（畜産食品科学）、15年度に長野實先生（畜産経営学）、16年度に中西五十先生（草地学）、18年度、阿部亮先生（動物栄養学）、伊藤敞敏先生（畜産食品科学）、19年度、川路利和先生（資源動物管理学）、20年度、塩谷正勝先生（生産環境学）、遠藤克先生（動物生体機構学）の先生方がご退職されている。一方、平成12年度に加野浩一郎准教授（資格は現時点あるいは退職時、以下同じ）、13年度に伊藤敞敏教授（畜産食品科学）、村田浩一教授（野生動物学）、16年度に岩佐真宏准教授（野生動物学）、17年度に佐伯真魚専任講師（草地学）、19年度に梶川博准教授（動物飼養学）、21年度には、副手や実験助手を除いて初めての女性専任教員である福澤めぐみ助手（動物行動学）が採用されている。新しい分野として野生動物学研究室が平成13年に新設され、本年度には警察犬訓練士の資格を持ち、動物行動学をご専門とする福澤先生が加わり、伴侶動物分野の教育・研究を行う体制が準備されつつある。

本学科のこれからの10年を考えた時、学生の興味関心分野の充実とともに、動物関連産業全体を視野に入れた教育研究体制の充実を、学部の特徴である総合力を基礎に実現していく必要があるだろう。

昭和23年4月　専門部農業経済学科を、法文学部より農学部に移管

昭和24年2月　新学制による「日本大学」設置
農学部＝農学科・畜産学科・農業経済学科・林学科・水産学科
新学制による「東京獣医畜産大学」設置

昭和25年3月　日本大学短期大学農業科設置
昭和26年4月　東京獣医畜産大学に獣医学研究所設置
4月　　呉　文炳 学部長就任
大学院農学研究科農業経済学専攻（修士課程）設置

呉　文炳 学部長

農学部本館（旧7号館）

いもづる会

◆食品経済学科◆

2010年度より食品ビジネス学科に名称変更

連絡先　マーケティング研究室
0466-84-3409
事務局長　木島　実
E-mail:kijima@brs.nihon-u.ac.jp

食品経済学科この10年

食品経済学科は、学部校友会60周年に先駆けて、昨年60周年を迎え、その祝賀会を開催したが、この10年ほどの間に生じた変化は当学科にとってはとても大きなものであったといえよう。

まず一番の変化は、７年前の2002年に三軒茶屋の東京校舎から湘南校舎へ移転したことであろう。それによって生物資源科学部は11学科が統合され、以降は学部としての様々な取り組みが一体化され、学生にとっては他学科開講科目の相互履修の融通、キャンパス整備による学習環境などが大きく前進した。

1999年東京校舎の統計資料室

2009年現在の統計資料室

2001年12月「さようなら三茶フェスティバル」

第二の変化は、来年度から食品経済学科は『食品ビジネス学科』に名称を変更する予定であるが、そのための準備にはかなりの時間を割いてきたということである。やや大げさに表現すれば、この10年間は、常に学科名称の変更を視野に入れてカリキュラムや資格取得の検討をして来たと言っても過言ではないだろう。社会の変動が激しく、それは食料問題にも素早く影響し、食品経済という学問領域は、「食」をきっかけとして様々な社会問題と複雑に繋がりあっていることを改めて実感せざるを得ない状況にある。食品経済学科としても、その事実を受け止め、学問領域を拡大し、安全・安心、そして安定的な食料供給を通じた未来を創造すべく、そうした時代の要請に応える人材育成、研究を視野に入れ、1年生からのゼミの導入、海外フードシステム現地研修やインターンシップなど、実習・演習科目を充実させてきた。それらの延長上に今回の名称変更およびカリキュラム改正、取得資格の充実がある。

食品ビジネス学科としてのオープンキャンパス

この10年の間に、食品経済学科では1,400人近くの卒業生を送り出しているが、校友会は現役の学生と交流を持ちながら、その成長に手を差し伸べてくれている。就職戦線が厳しくなれば、就職懇談会を、新入生が入れば学ぶ事のディスカッションを、というように、近年益々校友会と現役学生との交流が盛んになって来ている。子供は社会に要請されて生まれて来たともいう。大人へ向けてのその最後の仕上げを校友も助けてくれている。この結束には心から感謝するとともに、誇りに思う。

（礒田みゆき）

校友会主催の就職懇談会

現在の学科教員

昭和26年11月　学校法人日本大学と、学校法人東京獣医畜産大学とが合併

昭和27年3月　農学部に獣医学科を設置し、
学部名称を日本大学農獣医学部と変更

昭和27年10月　短期大学を短期大学部と名称変更

昭和29年6月　岩田耕作 学部長就任

昭和33年1月　農芸化学科設置

岩田耕作 学部長

昭和33年両国日大講堂設置

あすなろ会

◆森林資源科学科◆

連絡先　森林環境保全研究室
0466-84-3674
事務局長　阿部　和時
E-mail:kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

あすなろ会この10年の歩み

あすなろ会が旧称林学科校友会から名前を変えたのは平成8年で、10年余りが過ぎました。最後の林学科卒業生を送る会を開いて送り出したのは平成11年の3月で、それ以降、学科の学生と教員は全て森林資源科学科所属となり、今年でちょうど10年目となります。平成11年以前の10年間を「移転と林学科最後の10年」とすれば、1999年以降のこの10年間は「森林資源科学科とあすなろ会始まりの10年」といえます。

学科の10年

平成11年の学科は石津敦、田中純一、山根明臣、濱本和敏、佐々木惠彦、塚本良則教授、本江一郎、石垣逸郎、井上公基、岩田隆太郎助教授、塩沢南海治、鍛代邦夫、宮野則彦、増谷利博、堀江亮、瀧澤英紀専任講師、杉淵雅代、吉澤由紀、益田好恵副手で構成されていました。その後、木平勇吉、志水一允、鈴木和夫、櫻井尚武、阿部和時、阿部恭久教授、佐藤喜和、吉岡拓如、園原和夏、上村真由子、杉浦克明助手、斉藤真澄、畠中聖奈、松本こずえ副手、菅原真由美、中野可菜実験助手が加わりました。

現在の学科は井上、岩田、阿部（和）、櫻井、阿部（恭）、濱本、志水教授、石垣、宮野、増谷、堀江准教授、鍛代、瀧澤、佐藤、吉岡専任講師、園原、上村、杉浦助手、松本副手、中野実験助手で構成されています。石津、田中、山根、佐々木（平成12-17年学部長）、塚本、木平、鈴木、本江（平成13年教授）、塩沢の先生方、杉淵、吉澤、益田、斉藤、畠中、菅原の各氏はすでに退職されています。在職中のご尽力に敬服し、感謝たします。

あすなろ会の10年

隔年の平成11,13,15,17,19年には、それぞれ総会及び懇親会を開催して、あすなろ会の事業内容を決め、議事の後には校友間の懇親を深めています。これらの間の年には、理事会を開催して事業方針を検討し打ち出しています。

平成11年のあすなろ会事務局は故・鹿野忠会長と石垣逸郎事務局長を中心に構成され、平成13年には赤塚敏夫氏が会長に、平成17年には阿部和時教授が事務局長に交替し現在に至っています。

事業の一環として、あすなろ会は、毎年の卒業式に際し、卒業生のうち6名（ゼミナールごとに1名）、人物、成績ともに優れる者に対して、あすなろ会会長賞を贈っています。これについては、従来、森林・林業関連分野へ就職することを選考の目安としていましたが、時の流れに従い、この制限は不要となりました。また、就職を目前にひかえた学生を対象に、森林資源科学科卒業生による就職情報交換会や講演会を、学科が毎年開催していますが、あすなろ会はこれを支援しています。

校友の10年

校友の活躍はめざましいものがあります。梅垣俊一郎氏（14期）は、岩手県木材協同組合連合会副会長、同県木材青壮年協議会会長、同県産ブランド協議会会長などを歴任し、リーダーとして木材界の発展に尽力したことにより平成15年に黄綬褒章を受章されました。濱中良平氏（14期）は、元禄13年創業濱中林業の9代目経営者として、地元林業研究会会長、森林組合理事などを務めながら、保護司として「罪を憎んで人を憎まず」の精神で、長年にわたり更生保護事業の推進に大きく貢献したことにより平成19年に藍綬褒章を受章されました。

田中惣次氏（18期）は、平成17年度農林水産祭において天皇杯を受賞されました。今井保隆氏（31期）・吉良達氏（45期）は、天竜森林組合機械班として、平成17年度間伐・間伐材利用コンクールにおいて林野庁長官賞を受賞されました。同じ年の受賞でしたので、学科は田中、吉良氏を大学に招き、お二人に学生向けの講演をしていただきました。

まだまだ多くの校友がご活躍のことと存じますが、事務局で把握している校友のご活躍を紹介いたしました。

これからも森林資源科学科の学生と教員、あすなろ会の校友が一体となって発展していくことを切望いたします。

（鍛代邦夫）

最後の林学科卒業生を送る会～平成10年度卒業記念パーティー（平成11年3月・平成10年度林学科卒業アルバムより）

多くの校友、ご父母、先生方と共に盛大に開催されました。

黄色の実習服が雪の水上演習林に大集合（平成11年2月）

最後の林学科4年生を、卒業生として送り出した森林資源科学科1年生です。

平成15年度　森林資源科学科OG・OBによる就職情報交換会（平成15年11月）

卒業生が学生に就職に関するアドバイスを個別に行うやり方でこの年にはじめました。現在学部が実施しているOG・OB就職情報交換会もこれが始まりです。

平成20年度　森林資源科学科卒業生による就職情報交換会（平成20年11月）

卒業生の個々のブースに学生が立ち寄ってお話を聞く。現在もこのやり方を続けて実施しています。これまでに、多くの校友に協力していただいています。

昭和37年3月　農業工学科・食品製造工学科設置

昭和38年2月　拓植学科設置
9月　大森智堪 学部長就任

昭和41年12月　食品製造工学科を食品工学科と名称変更

昭和42年12月　農業経済学科を食品経済学科と名称変更

昭和44年4月　磯辺秀俊 学部長就任

大森智堪 学部長

磯辺秀俊 学部長

桜　水　会

◆海洋生物資源科学科◆

連絡先　海洋生物機能応用学研究室
0466-84-3684
事務局長　松宮　政弘
E-mail:matsumiya@brs.nihon-u.ac.jp

海洋生物資源科学科 桜水会の10年

本学科は平成8年に水産学科より海洋生物資源科学科に改組し、12年に現在の8研究室（海洋生物生理学研究室、魚医学研究室、海洋資源育成環境学研究室、海洋生体機能化学研究室、海洋生物機能応用学研究室、海洋環境学研究室、海洋生物資源生産学研究室、海洋生物資源管理学研究室）体制の基礎が確立しました。その後、平成16年度より技術者教育に即した履修方法を定めたJABEE対応プログラム「専修コース」と海洋生物資源科学を基盤により広い分野の科目を履修できる「広域教育コース」の2コース制を設置し、平成18年に「専修コース」がJABEE認定プログラムに認められ、現在に至っております。なお、ここ数年は男子学生と女子学生の比率は6:4付近を推移しています。

ここ10年間の学科の人事（敬称略）を振り返ると、平成11年度の学科教員は教授10名：門田定実、西出英一、望月　篤、内田直行、廣瀬一美、清水　誠、杉田治男、朝比奈　潔、廣海十朗、奥谷喬司、助教授1名：吉原喜好、専任講師3名：小橋二夫、松宮政弘、小島隆人、助手３名：青野英司、宮内浩二、荒　功一、副手３名：大岩弘美、小數賀祐子、中島理恵でした。平成11年度に門田教授、平成12年度に清水教授、青野助手、大岩副手が退職されました。平成13年度は新任：谷内　透（教授）、間野伸宏（助手）、長野　香（副手）、退職：西出英一（教授）、奥谷喬司（教授）、中島理恵（副手）、14年度は新任：森　司（専任講師）、高井則之（助手）、蒲地美砂（副手）、15年度は退職：小數賀祐子（副手）、16年度は退職：小橋二夫（専任講師）、長野　香（副手）、新任：糸井史朗（助手）、17年度は新任：鈴木美和（助手）、岩井美希（副手）、18年度は新任：畠中聖奈（副手）、19年度は退職：藤岡（旧姓：岩井）美希（副手）、畠中聖奈（副手）、新任：榎本亜矢（実習助手）、20年度は退職：望月　篤（教授）、廣瀬一美（教授）、21年度は新任：高野美穂（実習助手）でした。その間に在職の先生方が昇格され、平成21年度は教授7名：内田直行、杉田治男、朝比奈　潔、廣海十朗、吉原喜好、谷内　透、松宮政弘、准教授2名：小島隆人、森　司、専任講師6名：荒功一、間野伸宏、宮内浩二、高井則之、糸井史朗、鈴木美和、実習助手2名：榎本亜矢、高野美穂です。

ここ10年間の桜水会を振り返ると（敬称略）、会長は平成11-13年度：竹内　均（2期）、14-16年度：櫻木　進（10期）、17-21年度：吉田　良之（15期）でした。また、事務局長は平成11-14年度：小橋　二夫（13期）、15-17年度：吉原　喜好（14期）、18-20年度：杉田　治男（24期）でした。平成20年度の卒業生は58期の桜水会会員になり、会員数は7,753名に達しました。

（松宮政弘）

平成15年6月下田臨海実験場にて
大学教職員と「すざき2世」

平成15年1月下田臨海実験場にて右より長野さん、高井先生、小數賀さん、蒲池さん

平成20年桜水会懇親会にて前列右より
内田教授、西出 元教授、安斎短大教授

平成20年度桜水会懇親会

昭和49年10月　小堀　進 学部長就任

昭和53年4月　獣医学科は当年度入学者から6年制（学部4年大学院2年）となる

昭和57年3月　久木田賢志 学部長就任

昭和59年4月　学校教育法の改正により農獣医学部獣医学科は6年制となる

昭和62年12月　応用生物科学科設置
短期大学部に生活環境科を設置

小堀　進 学部長

久木田賢志 学部長

工　学　会

◆生物環境工学科◆

連絡先　環境土木施設工学研究室
0466-84-3828
事務局長　青木　正雄
E-mail:m--aoki@brs.nihon-u.ac.jp

会員・準会員との交流・情報交換を通じて活性化に取り組んできた10年

酒川和男会長を中心とする第16期体制のもと、会の目的である“会員の親睦”と“母校の発展”を実現すべく、学科や準会員（学生）との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動に加え、工学会ホームページの充実など会員への情報発信を展開しています。

〔総会・講演会・懇親会〕

平成20年11月29日に、湘南キャンパスで開催した総会では定例となった講演会も併せて開催しました。

この講演会では、本学科卒業生（昭

戸崎 紘一 氏

和39年3月卒・2期、元(独)農業・生物系特定産業技術研究機構生物系特定産

青山 友雄 氏

業技術研究支援センター）の戸崎紘一氏から『私は、今〇〇〇』と題し、ご自身が現在取り組まれる環境保全活動の講演の他、元日本大学生物資源科学部短期大学部教授で本学科卒業生（昭和39年3月卒・2期）でもある、青山友雄教授をお招きして『理想と現実の二重焦点』と題して講演していただきました。

懇親会では、徳山龍明学部長をはじめ、校友会の各分会長をお迎えして、会員と準会員との活発な交流がなされました。

〔工学会ホームページによる情報発信〕

本会では、ホームページ（HP）の整備により、会員・準会員に対する情報提供の充実化を図っています。HPでは、年間の事業計画やイベント情報（年間予定・トピックス・イベント記録写真）などが掲載され、随時更新しています。是非ともHPへ（http://www.bae-kougakukai.org）アクセスしていただき、イベント等にご参加ください。

工学会・学科の将来を担う人材への支援

本会では、この10年での積極的活動の中心として、準会員との交流・支援に取り組んできました。具体的には以下のような活動を実施しています。

〔学科Tシャツの贈呈〕

1年生を対象に実施される学科対抗でのスポーツフェスタのユニホームとなる学科オリジナルTシャツを毎年継続して贈呈しています。

学科Tシャツ贈呈式

〔フレッシュマンセミナー(FS)への支援〕

1年生の授業のひとつであるFSへの協力支援として、OBOGである会員が実社会を経験した視点から、例えば「学生生活をどう過ごすか」「就職・働くとは」などのアドバイス講演や交流会を実施しています。

FSでのOBOG講演会

〔工学会会長賞の授与〕

卒業を迎える4年生を対象に、学業及び地域社会貢献等に励んだ学生に対して、会長賞を授与しています。

このほかにも、オープンキャンパス実施時の学生スタッフに対する昼食提供や、学科パンフレット製作・印刷

謝恩会での工学会会長賞の授与

への資金的支援などを実施しています。会員の皆さまから交流・支援に関するアイデアがありましたら、積極的に各種会合へご参加・ご発言ください。

学科の動向

本学科はJABEEの地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定継続を得ることができました。会員の皆さまのご協力に感謝いたします。今後とも引き続き、OB·OGの皆様で技術士・技術士補を取得された方は，学科HPへの情報登録のご協力お願い致します。

〔人事〕

平成21年3月、世良田和寛教授が退職されました。世良田教授は、工学会１期生の大先輩であり、執行部や学科主任をご歴任され、本学科のためにご尽力いただきました。長い間ご苦労様でした。これからもご健勝で活躍されますことを願う次第であります。また、黒田有希子副手が退職されました。学科事務をはじめ学生指導などご苦労さまでした。

對馬孝治 助手

平成21年４月に對馬孝治助手、諏訪部茉理子実習助手が着任されました。對馬助手は、豊橋技術科大学助教を経ての着任で、本学科では、里山の生態系・生物による物質循環を通じての研究・学生教育に取り組んでいただきます。諏訪部実習助手は、本学科の卒業生でもあります。また、藤沢直樹助手が専任講師に昇格いたしました。今後さらに、研究・学生指導に努める所存です。よろしくお願いいたします。

諏訪部茉理子 実習助手

〔事務局より〕

会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までE-mail又はお葉書にてご一報ください。（藤沢直樹）

昭和63年3月　門田定美 学部長就任

平成3年4月　短期大学部農業科・生活環境科を、農学科・生活環境学科と名称変更

平成8年4月　学部を改組し、学部名称を日本大学生物資源科学部と改称
同時に農学科を植物資源科学科に、畜産学科を動物資源科学科に、水産学科を海洋生物資源科学科に、林学科を森林資源科学科に、農業工学科を生物環境工学科に、食品工学科を食品科学工学科に、拓植学科を国際地域開発学科にそれぞれ名称変更

平成11年4月　生命科学研究センター設置

門田定美 学部長

ＦＴ会

◆食品生命学科◆

連絡先　食品資源学研究室
0466-84-3981
事務局長　竹永　章生
E-mail:takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

FT会この10年の歩み

FT会は平成21年3月に卒業生(第44期)が新会員として加わり、現在、おおよそ5300名の会員数となった。会員の世代も上は団塊の世代あたりから、中間は新人類といわれた世代、下はまもなく平成世代となり、会員数もさることながら、世代層をみても大所帯となったのである。そこには多種多様な考えがあり、この10年を振り返ると、いかに多くの世代に共鳴・共感できるFT会をつくるのかということに力を入れた10年ではなかっただろうかと思う。ちょうど平成10年から、FT会は関村会長の下、精力的に準会員および若い会員への支援および校友会活動への理解を推し進めていった。若い会員がFT会活動に参加しやすい環境づくり、準会員の親睦会への支援、卒業年次における成績優秀者の表彰などはその現れである。この10年で取り組んだことは、まだ始まった段階ではあるが、今後、活気あるFT会となることに期待したい。

平成21年度新入生

食品科学工学科から食品生命学科へ

平成21年４月から食品科学工学科は食品生命学科へと名称変更となった。食品生命学科は今までの基盤である食品製造に、近年、注目されている食品機能分野を新たに組み入れたものである。学科名称変更にともなって研究室名称も変更となった。構成する学科教員もこの10年で大きく変わった。平成21年３月には、学科設立当初からお世話になった伊藤眞吾先生が定年退職された。この10年間の研究室の変遷を下記にまとめる。

表　平成10年から現在までの研究室名称および教員の遍歴

平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成15年
		湘南校舎移転		
食品製造学（旧　1研） 中村・木村・平田		食品機能化学 中村・木村・細野		上野川・木村・細野
食品化学工学（旧　2研） 鈴木（功）・今井・陶				
食品製造工学（旧　3.7.8.研） 鈴木（和）・鈴木（公）・阿部				林・鈴木（公）・阿部
食品理化学（旧　4研） 伊藤・竹永		食品学	伊藤・竹永・鳥居	
食品保蔵学（旧　5研） 山崎・梅沢・荻原	山崎・荻原	食品微生物学	山崎・荻原・古川	
食品分析学（旧　6研） 武田・千野・松藤		食品衛生化学		
学科事務 前川・木本		香取・稲垣		

平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成21年
				学科名称変更
		上野川・細野・高橋		食品生命機能学
				食品生命工学
				食品創成科学 小田・鈴木（公）・阿部
				食品資源学
			森永・荻原・古川	
山形・千野・松藤				食品健康解析学
新垣・安藤	安藤・沖野			

平成11年10月　佐々木 惠彦 学部長就任

平成12年4月　大学院農学研究科を改組し、名称を生物資源科学研究科
（生物資源生産学科専攻、生物資源利用科学専攻、応用生命科学専攻、生物環境科学専攻、生物資源経済学専攻の5専攻）を設置。
獣医学研究科獣医学専攻の定員を改定。

平成14年1月　生物環境科学研究センター設置

平成17年4月動物医科学研究センター設置

佐々木 惠彦 学部長

拓　友　会
◆国際地域開発学科◆

連絡先　国際経営流通研究室
0466-84-3457
事務局長　早川　治
E-mail:osamu@brs.nihon-u.ac.jp

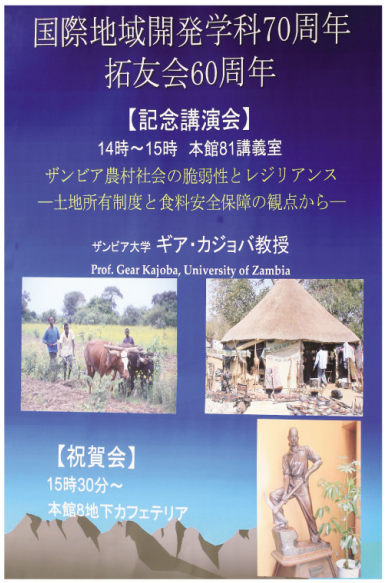
拓友会この10年の歩み

昭和12年に法文学部専門部拓殖科として創設された本会の半世紀にわたる歴史については、拓友会発行「拓友50年誌」(平成9年11月)に詳しい。その後、本学科ならびに拓友会の変遷には特筆すべき事柄が幾つかある。

平成9年発行「拓友50年誌」

本学科は、平成14年4月に世田谷区下馬から藤沢市亀井野へキャンパス移転した。昭和14年8月に日本大学が取得し、当時の拓殖実習場などとして使用した亀井野の地に居を移すこととなった。

酒井健夫氏よりご祝辞をいただく



学科創立70周年・拓友会60周年記念ポスター

平成19年12月1日に「学科創立70周年・拓友会60周年記念祝賀会」が、日本大学生物資源科学部で挙行されたことである。日本大学生物資源科学部長　酒井健夫氏(現日本大学総長)は祝辞の中で、『当学科は、設置された当初は国家的使命遂行のため、海外農学と海外貿易とに力点を置いてきたが、現在は国際地域開発学を基礎に、環境・技術・経済・協力を視野に入れ、発展途上地域の開発と諸問題の解決手法を教育することに視点をおき、一貫して農学を中心とした地球規模の開発、すなわち世界に貢献するための実践的社会人を輩出し、発展途上地域に対して貢献している』と述べられた。さらに、本部校友会本部長　若女井光男氏、日本大学生物資源科学部校友会長　茂澤昊氏からも祝辞をいただいた。また、祝賀会に先立ち開催した「記念講演会」で講演されたザンビア大学教授 ギアー・M.カジョバ先生を取り囲んで談笑する多くの学生も見られた。

ギア・ガジョバ教授を囲んで

さて、次に、平成14年拓友会総会において、平成3年より第3代会長を務められた近藤良三郎氏に替わり、内田俊太郎氏(昭和43年卒)が第4代会長に就任された。また、内田氏は、平成20年7月に開催された日本大学生物資源科学部校友会総会において第5代会長に選出され、初代工藤正城氏(初代拓友会会長)、第3代庄川洋一氏(第2代拓友会会長)に次いで、拓友会からは3人目の学部校友会会長となった。

この10年間に拓友会員は新たに1,413名が加わり、名簿上の卒業生総数は10,294名となり1万名超となったことは特筆できる。卒業生の中には、青年海外協力隊員として、また企業の戦士として海外で活躍する大勢の拓友会員がいることを記しておきたい。

また、拓友会ホームページもご覧下さい。

http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu

(早川 治)

平成17年　8月酒井健夫 学部長就任

平成19年　4月短期大学部を改組し生物資源学科を設置。また農学科、生活環境学科を募集停止

平成20年　8月徳山龍明 学部長就任

平成21年　4月農芸化学科から生命化学科に、食品科学工学科から食品生命学科にそれぞれ名称変更

(沿革年表内　敬称略)

酒井健夫 学部長

徳山龍明 学部長

短期大学部湘南校友会

◆短期大学部生物資源学科◆

連絡先　短期大学部生物資源学科
教養　国語研究室
0466-84-3749
事務局長　蒲原　義明
E-mail:kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

校友会を顧みて

生物資源学科長　渡邉　慶一

10年前の短期大学部はむつあい会（農学科）と生活環境学科校友会（生活環境学科）として活動していた。むつあい会は会報を会員に送付し、それぞれの校友会とも総会、懇親会を実施し、交流を深めていた。平成10年度卒業アルバムのページをめくりながら各先生、卒業生の顔を眺めていると学生指導、研究室活動など当時のことが懐かしく思い出される。当時の農学科のスタッフは園芸学第一研究室（武田恭明教授、寺澤輝雄助教授）、園芸学第二研究室（土岐知久教授、渡辺慶一助教授）、環境生態学研究室（浅野紘臣助教授）、植物生体制御学研究室（楠元　守教授、学部の諸課程へ移動）、情報処理学研究室（青山友雄助教授）、応用生物化学研究室（安齋　寛助教授）および影山直美副手であった。生活環境学科は環境科学研究室（飯塚　統教授）、食品学研究室（成田弘子教授、大川いづみ助教授）、住居学研究室（飯尾　満助教授）、ランドスケープ学研究室（島田正文助教授）、生活経済学研究室（小野信夸教授）、語学研究室（坂本郁子助教授）、体育学研究室（後藤雅弘助教授）、淺井理恵副手で学生指導にあたっていた。さらに、平成11、12、13年度と卒業アルバムを眺めてゆくと当時の講義、農場実習、実験、軽井沢学外研修、運動会などの光景が思い起こされる。両学科とも主に４号館に研究室があった。その後短大棟（５号館）が建設され両学科の研究室、実験実習室、講義室、ゼミ室などが設置され、さらに学科事務室、学科会議室が配置された。

平成19年４月に農学科と生活環境学科を統合し、入学定員150名の生物資源学科を開設した。校友会も短期大学部湘南校友会が誕生した。教員構成は渡邉慶一教授（植物資源利用学研究室）、島田正文教授（ランドスケープ学研究室）、飯尾　満教授（住居学研究室）、寺澤輝雄教授（植物生態学研究室）、浅野紘臣教授（環境生態学研究室）、安齋寛教授（応用生物化学研究室）、蒲原義明教授（教養・国語研究室）、光澤　浩准教授（生物学研究室）、山下正道准教授（食品学研究室）、新町文絵専任講師（植物機能開発学研究室）、山内綾子専任講師（教養・英語研究室）、志澤泰彦専任講師（化学研究室）、松橋明宏専任講師（教養・体育学研究室）、小泉郁子副手、角田亜未実習助手（学科事務室）の15名で教育にあたっている。平成21年３月に新学科の一期生が巣立った。

生活環境学科校友会懇親会

生活環境学科卒業パーティー

農学科むつあい会懇親会

農学科むつあい会懇親会

農学科農場生産物試食会

スポーツフェスタ

生物資源科学部と校友会のさらなる発展のために

日本大学生物資源科学部は、文部科学省のCOEプロジェクト（国際的に通用する研究拠点づくり）に連続2年選定され、着実に研究成果を内外に発信され、高度な知見を蓄積されています。こうした名誉ある母校を支援し協力していくことは、私たち校友の大いなる誇りです。永い歴史の中で、農学部・農獣医学部・生物資源科学部と学部名称が変わり、その発展とともに校友会は、これまでの先師先人達の輝かしい足跡に対して、絶えず敬意と感謝を忘れることなく勇往邁進しています。

日本大学生物資源科学部校友会では、準会員、正会員ともに期待される魅力ある校友会創生を心がけ、常に校友会活動の活性化を強力に推進してまいります。どうか忌憚のないご意見ご要望ご支援を寄せられます様、お願い申し上げます。

応用生物科学科校友会

◆応用生物科学科◆

連絡先　蛋白質科学研究室
0466-84-3700
事務局長　司馬　肇
E-mail:chang@brs.nihon-u.ac.jp

本年の7月、日本大学生物資源科学部校友会は創立60周年を迎えます。平成4年（1992年）に創立された応用生物科学科校友会は、まだ歴史が浅い分会でありますが、過去10年間の応用生物科学科校友会及び応用生物科学科の歩みを振返ってみたいと思います。

【会員数】

10年前は968名だったが、現在では2338名となっています。

【会長・副会長】

応用生物科学科校友会が創立されてから、17年間ずっと大谷憲司氏（写真１）と飯塚崇氏（写真２）が頑張ってくださっています。

写真１ 大谷憲司 会長

写真２ 飯塚崇 副会長（右）と司馬 肇事務局長（左）

【事務局】

平成11年度（1999年度）までは中嶋睦安先生が、それ以降は司馬肇（写真２.左）が事務局長を担当しています。校友会の事務局を支えてくださいましたのは副手の皆様であります。浦田（旧姓土岐）恵子さん、高橋尚子さん、櫛田（旧姓五十嵐）由衣さん、田中（旧姓矢部）智子さん、松澤昭恵さん、本多紘子さん、遠藤慈子さん、岩垣志乃さん、校友会のためにご尽力いただき、本当に有難うございました。

写真３ 平成20年新入生歓迎会にて
新井直人先生（前列右）と茗名 充先生（後列左）

【会計係】

平成11年度までは司馬肇が、平成12年から平成16年度までは新井直人先生（写真３）が担当しました。平成17年度以降は明石智義先生が担当しています。

【校友会の活動】

1. 学部校友会が発行している校友会報を通じて、会員の皆様に学科や校友会事務局の現状をお知らせしています。
2. 研究室対抗球技大会に対する支援を行っています。本事業は創立以来、学生間の絆を深めるために、毎年行っています。多くの会員から「良い思い出になりました。是非、続けてほしい。」という声をいただいていますので、今後も継続していきたいと思っています。
3. 昨年から、新入生と学科教員そして新入生同士の親睦を深めるために、新入生歓迎会を行うようになりました。また、新入生間の結束を高めるために、スポーツフェスターに着るT-シャツの配布も行っています。デザインの考案は新入生が行っています。
4. 平成13年12月、相模大野センチュリーホテルにおいて校友会創立10周年の祝賀会を盛大に行いました。現在、平成15年に行ったアンケート結果をもとに、総会と懇親会を2～3年ごとに開催することになっています。今年度は開催を予定していますので、是非ご参加ください。

【学科教員の構成】

研究室名	平成11年（1999年）	平成21年（2009年）
核酸科学研究室	井上正教授 新井直人助手	高橋秀夫教授 新井直人専任講師
蛋白質科学研究室	名取正彦教授 司馬肇専任講師	細野邦昭教授 司馬肇准教授
分子微生物学研究室	中嶋睦安教授 砂入道夫助教授	中嶋睦安教授 砂入道夫准教授 岩淵範之専任講師
生命工学研究室	別府輝彦教授 上田賢志専任講師	上田賢志准教授 高野英晃助手
植物細胞学研究室	小山鐵夫教授 内山寛専任講師	綾部真一教授 内山寛准教授
生体分子学研究室	綾部真一教授 青木俊夫専任講師	青木俊夫准教授 明石智義専任講師
動物細胞学研究室	佐藤嘉兵教授 苫名充専任講師	佐藤嘉兵教授 苫名充専任講師
生体制御科学研究室	池田和正助教授	花澤重正教授 池田和正准教授 舛廣善和専任講師
学科事務室		定野友美実習助手 蝦名佐和子実習助手

平成11年度と平成21年度年の各研究室の教員構成を表にまとめました。過去10年間において、応用生物科学科のためにご尽力くださいました4名の先生（名取正彦教授、井上正教授、小山鐵夫教授、別府輝彦教授）が退職されました。その一方で、7名の先生〔高橋秀夫教授（核酸科学研究室）、細野邦昭教授（蛋白質科学研究室）、花澤重正教授（生体制御科学研究室）、明石智義専任講師（生体分子科学研究室）、岩淵範之専任講師（分子微生物学研究室）、舛廣善和専任講師（生体制御科学研究室）、高野英晃助手（生命工学研究室）〕が着任され、学科のさらなる発展のために頑張っています。このうち、明石智義先生、岩淵範之先生、高野英晃先生（個人写真）は応用生物科学科の卒業生であります。

明石智義 先生

岩淵範之 先生

高野英晃 先生

【研究室の再配置】

平成14年と15年において研究室の再配置が行われました。現在、4号館2階には生体分子学研究室、分子微生物学研究室、生命工学研究室、学科事務室、学生実験室があり、4号館3階には核酸科学研究室、生体制御科学研究室、植物細胞学研究室、蛋白質科学研究室、動物細胞学研究室があります。

【大学院関連】

平成12年（2000年）に大学院農学研究科が改組され、生物資源科学研究科が設置されました。応用生物科学科の先生方は同研究科の応用生命科学専攻を担当しています。現在までに112名が博士前期課程（修士課程）を、12名が博士後期課程（博士課程）を修了しています。

【今後の校友会】

応用生物科学科校友会が今後発展していくためには、会員の皆様方のご参加は不可欠であります。事務局では、できる限り皆様のご要望に応えていきたいと考えております。どうか、校友会の運営や活動について多数のご意見、ご提案をお寄せください。　（文責 司馬　肇）

学部校友会支部

宮城県支部の近況

平成16年７月17日、県内校友多数の賛同をいただいて学部校友会９番目の支部として発足いたしました。会員の勧誘・拡大に苦戦していますが、新年会・講演会、総会・懇親会、山形県支部との交流等を通して親睦、融和を深めています。また、仙台市に舞台が移った〝全日本大学女子駅伝〟（10月第３日曜日）は、全国から代表26校が出場し〝杜の都駅伝〟としてテレビ実況中継される注目の大会だけに、オール日大校友会県支部一丸となって他校に負けない応援旗・応援団を配置し、伝統のピンクのタスキで杜の都を駆け抜ける後輩の力走に日大魂の雄叫びも高く熱くなっています。また、思い出が一杯の下馬・六会・馬掘を訪ねる〝懐かしの地を訪ねるツアー〟を計画しており、準備を進めています。

応援旗の準備で大忙し

選手を迎える準備OK

熱い応援を送る小野支部長

関東大会V2の勢いで臨みましたが無念の11位。
来年の躍進を誓った笑顔の選手を慰労会で激励

次ページへ続く

山形県支部について

山形県支部は、平成4年2月29日に55名の出席者で設立総会を開催したが、本総会は準備委員会の位置付けとして本部に申請し、翌年2月27日の総会を第1回とした。

本支部は、昭和40年農学科卒業の校友数名が発起人となり「農学校友有志会（仮称）」を結成し年1回開催して来た。昭和44年獣医学科卒業の校友により角笛会山形県支部が発足した。昭和50年農

平成8年農獣医学部山形県支部総会

学科、獣医学科及び畜産学科等の校友が参加し有志の輪が拡大。

平成元年日大農獣医学部校友会山形県支部の設立に向けて、各学科数名の有志により準備が進められた。

平成3年校友会としての準備を整え支部発足総会を開催する事となり、その総会が前述のとおりの開催となった。

平成14年農獣医学部山形県支部総会

以来、昨年の第16回までの内第6回（平成10年2月）と第10回（平成14年2月）の2回を除いて宿泊による開催であった。

総会では、本部からの近況等についてご講演いただいているが、支部としても第2回から第11回までは各学科交替で会員による体験談等について約1時間講演してもらい、第12回からは学科交替で教授によるご講演をお願いする事となり、第16回は森林資源科学科赤塚先

平成16年農獣医学部山形県支部総会

生による「首都圏における森林・林業について」、第15回は食品経済学科大矢先生による「食品メーカーの特徴と海外進出」について講演していただいた。

第1回発足時総会には55名の出席があったが、しだいに出席会員の数が減少し、会の運営も苦しい状況にあり校友会員500名余への総会開催案内について時々再考の提案が出される。案内も会費の納入や今後の参加を期待して発送する事としている。近年卒業間もない年少会員の出席が目立ち、今後活況する事を期待している。

山梨県支部の歩み

昭和18年11月12日、甲府市において関係者26名により日本大学農獣医学部校友会山梨県支部として仮発足しました。翌７月学部校友会定期総会において正式に山梨県支部が承認されました。以来県支部校友会員の絆と親睦を深めながら幾多の先輩達の努力の積み重ねにより26年の歳月を重ねることとなりました。

県支部設立20周年記念総会に向かって

（平成９年～平成20年）

①平成９年　会員待望の県支部会員名簿を編纂発行しました。総会員数707名を確認しました。

②平成12年　日大明誠高等学校の災害に対しお見舞いをいたしました。

③平成13年　山梨県支部の旗を作製しました。

④平成17年　県支部設立20周年記念総会を石和温泉にて盛大に開催しました。学部校友会より内田副会長他２名、日大山梨県支部より金丸支部長のご臨席を賜りご祝辞や校友会活動の報告をいただきました。
議事について役員改正が行われ、長きにわたり活躍された小越支部長は相談役に就任されました。後任支部長は古屋勝美氏が選任されました。

⑤平成19年　県支部の設立や運営にご尽力された県支部相談役遠藤晴正相談役が逝去なされました。

⑥平成20年　定期総会において県支部名を従来の旧学部併記を改め「生物資源科学部山梨県支部」と改正いたしました。　古屋　記

高知県支部

日本大学生物資源科学部校友会創立60周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

また、校友会結成以来、関係各位の今日までのご努力とご苦労に対し、敬意を表したいと存じます。

我々、高知県支部は昭和63年1月に、いもづる会高知県支部と、当時本部校友会事務局の高坂鉄雄先生、食品経済学科の来米速水先生方のご発案によりまして「生物資源科学部校友会高知県支部」を創設したいという願いから、発足したところであります。

初代高知県支部会長にいもづる会の安岡元雄氏、副支部長に角笛会の長崎収夫氏、事務局長にいもづる会の古谷眞氏の三役を選任し、来賓に大学から久木田学部長代理として、丸尾文治先生、高坂鉄雄先生、来米速水先生と本部校友会から校友会副会長の一川宏也先生をお招きし、盛大に高知県支部の発足式が行われました。

発足後まもなくの平成元年10月、安岡支部会長が他界され、二代目支部会長に長崎収夫氏が、副支部長に紫友会の中西正昭氏を選び、事務局長は古谷氏が引き続きあたって当支部の牽引役として、役員会及び総会の開催、校友会名簿の等の基礎作りに奔走していただきました。

平成三年の役員改選により、支部会長、

平成20年7月校友会学部総会

副支部長は両氏留任、事務局長にあすなろ会の中西孝彦氏を選任し、平成9年に退任するまで当支部の運営にご努力をいただきました。

三代目支部会長として中西正昭氏が、副会長に私、満喜葉会の森田稔雄が、事務局長に農学校友会の前川卓也氏が選任され、支部の運営にあたりました。

特に中西会長と前川事務局長の二人には支部創立10周年事業といたしまして、本部校友会現顧問の茂沢　杲先生のご尽力を賜り、台湾支部との交流会実現に汗を流していただきました。

交流会には台湾支部の林義謙氏にご出席をお願いし、高知県支部から会員13名が参加をいたしまして、日本大学生物資源科学部にエールを送るとともに、第一次産業に携わるものとしてお互いの農業情勢などの意見交換を行うことができました。

平成18年4月8日に、支部設立に際し多大な功績を残していただいた来米先生が他界され、先生を惜しんで総会出席者全員で黙祷を捧げました。

同18年8月から四代目支部会長に私、森田が、副支部長に中西孝彦氏を選び事務局長は前川氏が留任いたしました。支部創立20周年記念事業として支部会員8名が平成20年度本部校友会定期総会に出席し、他の校友会支部や本部校友会役員、事務局の方々と交流させていただきました。

現在の支部会員数は約200余名で、毎年定期的に7月役員会、8月に総会を開催し大学関係者及び本部校友会から先生方をお招きして、支部会員相互の親睦を図っています。

高知県支部も創設30周年に向け、これからも毎年総会を開催し、会員相互の交流と親睦を図ってまいりたいと考えておりますので、本部校友会、事務局関係者各位のご指導ご協力を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

末文となりましたが、日本大学生物資源科学部の益々の発展と、校友会関係各位のご活躍ならびにご健勝をご祈念申し上げます。

神奈川県支部

神奈川県支部の誕生・・昭和53年9月16日、横浜中華街、華正楼での設立総会で、故佐々木弘康先生（農学科1期）が、初代会長に選出されたのが出発点であり、やっと30歳の成年に達したばかりである。

08.8.枝豆を食う会

次ページへ続きます。

前ページより

第2代会長に高坂鉄雄(農業経済学科10期)就任･･初代会長が本会創立20周年記念祝賀会を目前に他界された。先生の追悼集会の席上、不肖私が二代目会長に推挙され就任した。微力ながら最後のご奉公をさせていただくとの決意を表明した。

第3代会長に秋元美治(畜産学科13期)就任･･現会長は、最初から本会の設立企画に参加し、初代会長の補佐役として、副会長を長年務め、平成15年度の総会で会長に選任された。現会長は、校友の心をどのように捉え、いかにして会の維持発展を図るかが今後の課題だ。そこから生まれたのが新しい試みである。

08.11.2.栽培作物収穫祭

現会長の構想･･高齢化時代の校友会の方向性を模索した結果、大学当局の理解を得て、実習農場の一角を借地し、作物の栽培と収穫の喜びを分かち合い、新鮮な食物の味覚を味わうべく、昨年は、枝豆、里芋、甘藷、大根、ピーマン、ソバ等を作り、枝豆を食う会、ソバを食う会(2回)、

08.12.15.新そばを食う会

秋には収穫祭を行い好評であった。家庭にも持ち帰りいただき、家族をも巻き込んだ学部の名称に相応しい校友会としての、発展存続を念願しているところである。(前会長　高坂鉄雄)

支部は、秋田県／支部長 佐藤鉄太郎・宮城県／支部長 小野 隆・山形県／支部長 小松文嗣・福島県／支部長 林 慎平・山梨県／支部長 古屋勝美・高知県／支部長 森田稔雄・大阪府／支部長 尾崎恒明、神奈川県支部／支部長 秋元美治、海外には台湾支部／支部長 林 淵煌があり、9支部がそれぞれ活動しています。　**(平成21年現在　敬称略)**

◆歴 代　学部校友会　会 長　並びに　事務局長　名 簿◆

農学部校友会会長

初代　三浦　伊八郎　(昭和23年～昭和26年)

農学部校友会会長（農学部校友会と法学部専門部拓殖科校友会の合併）

初代　工藤　正城　(昭和26年～昭和47年)

農獣医学部校友会会長（昭和28年11月名称変更、東京獣医畜産大学校友会と合併）

２代　佐藤　弘一　(昭和47年～昭和62年)

３代　庄川　洋一　(昭和62年～平成３年)

４代　茂澤　　杲　(平成４年～平成20年)

生物資源科学部校友会会長（平成8年4月学部名称変更）

５代　内田　俊太郎　(平成20年～現在)

事務局長

初代　来米　速水　(昭和23年～昭和26年)

２代　佐々木　実　(昭和26年～昭和47年)

３代　出口　吉昭　(昭和47年～昭和50年)

４代　石井　賢治　(昭和50年～昭和62年)

５代　高坂　鉄雄　(昭和62年～平成５年)

６代　木村　貞司　(平成５年～平成14年)

７代　本江　一郎　(平成14年～平成17年)

８代　世良田　和寛　(平成17年～平成18年)

９代　飯塚　　統　(平成18年～平成19年)

村山　　進　(平成19年～現在)

(事務局長代行事務長)

■校友会分会　歴代会長名■

・農学校友会（植物資源科学科分会）

初代　萩原　時雄
２代　山本　秀雄
３代　西鳥羽　曙
４代　楠元　　守
５代　石川　稔矩(現在)

・紫友会（農芸化学科分会）

初代　小関　　淹
２代　設楽　茂雄
３代　茂澤　　杲
４代　木嶋　弘倫(現在)

・角笛会（獣医学科分会）

初代　田中　延吉
２代　日比野　次郎
３代　中川　秀樹(現在)

・満喜葉会（動物資源科学科分会）

初代　白山　　巌
２代　倉田　裕司
３代　木村　榮一
４代　平田　芳弘
５代　岩間　　脩
６代　内田　駿一
７代　山本　　捷(現在)

・いもづる会（食品経済学科分会）

初代　佐藤　弘一
２代　三木　敏夫
３代　村山　　進
４代　島田　圭一郎(現在)

・あすなろ会（森林資源科学科分会）

初代　鹿野　　忠
２代　赤塚　敏夫(現在)

・桜水会（海洋生物資源科学科分会）

初代　野村　貫一
２代　小久保　清治
３代　納賀　栄之
４代　後夷　英俊
５代　柴山　佐武郎
６代　杉浦　　宏
７代　添田　秀男
８代　山下　金義
９代　竹内　　均
１０代　櫻木　　進
１１代　吉田　良之(現在)

・工学会（生物環境工学科分会）

初代　大森　智堪
２代　八木　　茂
３代　一川　宏也
４代　村田　　昇
５代　酒川　和男(現在)

・ＦＴ会（食品科学工学科分会）

初代　野田　義人
２代　関村　具由(現在)

・拓友会（国際地域開発学科分会）

初代　工藤　正城
２代　庄川　洋一
３代　近藤　良三郎
４代　内田　俊太郎(現在)

・応用生物科学科校友会（応用生物科学科分会）

初代　大谷　憲司(現在)

・むつあい会（短期大学部農学科分会）

初代　天野　六江
２代　田村　信雄
３代　冨沢　寿樹
４代　鈴木　勝春

(平成20年に短期大学部生活環境学科分会と合併して短期大学部湘南校友会となる)

・生活環境学科校友会（短期大学部生活環境学科分会）

初代　川瀬　裕美
２代　福井(岡崎)祥子

(平成20年に短期大学部農学科分会と合併して短期大学部湘南校友会となる)

・短期大学部湘南校友会（短期大学部生物資源学科分会）

初代　鈴木　勝春(現在)

60周記念誌編集委員会後記

各分会よりOBOGからの「校友だより」に、農学校友会・近藤様、山本様、角笛会・佐久本様、いもづる会・中州様、桜水会・鎌田様、工学会・佐藤様より、寄稿していただき有り難うございました。平成21年10月発行の通常会報第62号に掲載させていただきますのでご了承願います。尚、本文に関して生物資源科学部庶務課より写真データの提供、生物資源科学部ホームページの引用と各分会の資料提供に、編集委員会より本文をお借りし御協力に深く感謝いたします。

60周年記念誌発行所
日本大学生物資源科学部 校友会 記念誌編集委員会
〒252-8510　神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL・FAX　0466-84-3799
E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp
印刷所　ベーシックプリント
ＴＥＬ.048-833-3086　ＦＡＸ.048-833-3128
E-mail:bphide833@yahoo.co.jp